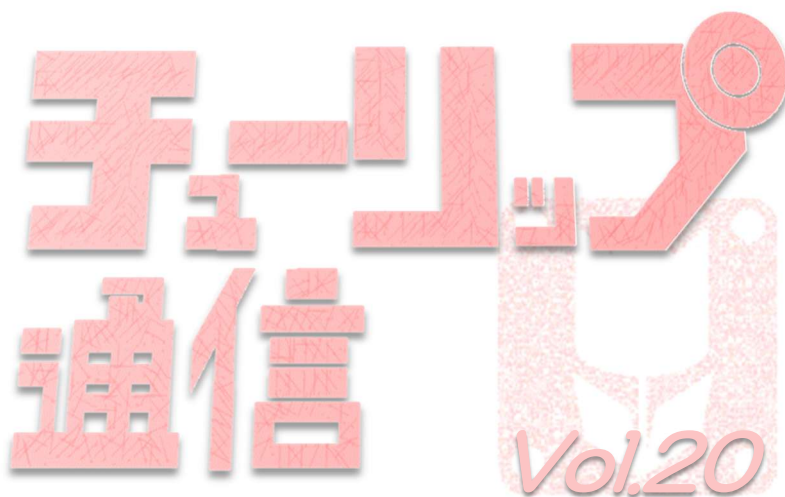


新潟市 胃内視鏡検診研究
ニュースレター



「チューリップ通信」は
新潟市の胃内視鏡検診の研究に
ご協力いただいている方に
お送りしている
ニュースレターです



見出し

*アンケートへのご協力をお願いします。	……1
*タバコの健康への害	……2
*最新のがん統計	……4

発行日 令和6年3月8日
発行元 胃内視鏡検診研究事務局
URL <http://www.j-sasg.jp/>

アンケートへのご協力をお願いします

2012年から始まった本研究は現在13年目を迎えました。一部の方には今後2年間はアンケート調査が続きますので、引き続きご協力をお願いします。

令和6年度は、昭和29年4月1日から昭和30年3月31日生まれの方に、10年目のアンケートをお送ります。 お手数をおかけしますが、皆様には、引き続き、健康状態に関するアンケートへのご協力をお願いします。

皆様にも、定期的ながん検診を受診頂くと共に、何か心配な症状がある場合には、かかりつけ医にご相談頂くことをお勧めします。

研究事務局では、皆様の健康に関するご相談を受け付けております。電話やメールなどで、いつでもご相談頂けます。ただし、緊急な対応は難しく、少しお時間を頂くこともありますので、予めご容赦ください。

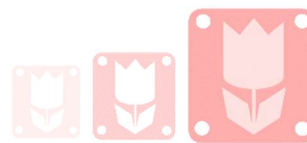
研究協力の中止を希望する場合

本研究への研究協力の中止を希望される場合は、研究事務局にいつでもご相談ください。研究協力の中止により、新潟市のがん検診をはじめとする様々な保健サービスが受けられなくなるなどの心配はありません。また、本研究につきまして、ご質問やご意見がありましたら、胃内視鏡検診研究事務局にご連絡ください。内容によっては返答に時間を要する場合がありますが、回答いたします。

本研究は、日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」（課題番号：23ck0106729）研究班（研究代表者 深尾彰）の一部として行っています。

タバコの健康への害

国立がん研究センターがん対策研究所検診研究部 中山富雄



タバコは、古代マヤ文明の人々が最初に吸ったと言われており、儀式や治療に使われていたと言われています。15世紀にコロンブスがアメリカ大陸を発見した際に、先住民が吸っていたタバコをヨーロッパに持ち帰り、急速に広まりました。日本にも16世紀にポルトガル人が持ち込み、喫煙習慣が広まりました。

1950年代のアメリカで、「喫煙と健康の問題に関する報告書」が提出され、1964年にはアメリカ公衆衛生局からのレポートで喫煙が病気の原因であるという宣言がなされ、世界は禁煙の方向に動き出しました。

タバコには、ニコチンによる「依存性」と健康に悪影響を与える「有害性」に加えてメンソールなどによる「魅惑性」があります。タバ

コの煙の中には実に5,300種類の化学物質が含まれ、うち70種類は発がん物質が含まれます。

2016年にわが国で公表された「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」（通称 タバコ白書）では、タバコと病気との因果関係を科学的に判定し、肺、口腔・咽頭、喉頭、食道、胃、膵など12のがんを、また虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、脳卒中、腹部大動脈瘤などの循環器疾患を、更に肺の疾患として慢性閉塞性肺疾患（COPD）をレベル1（タバコとの因果関係が確実）として判定しています。このほか2型糖尿病や妊婦の喫煙による乳幼児突然死症候群や早産、低出生体重など非常に多岐な病気がレベル1に判定されています（表1）。

表1 タバコの本人喫煙による健康影響

レベル1 (タバコとの因果関係を推定する証拠が十分；確実)	<ul style="list-style-type: none"> がん；肺、口腔・咽頭、喉頭、鼻腔・副鼻腔、食道、胃、肝、膵、膀胱、子宮頸部 肺がん患者の生命予後悪化、がん患者の二次がん罹患、かぎたばこによる発がん 循環器の病気：虚血性心疾患、脳卒中、腹部大動脈瘤、末梢動脈硬化症 呼吸器の病気：COPD、呼吸機能低下、結核による死亡 糖尿病：2型糖尿病の発症 その他：歯周病、ニコチン依存症、妊婦の喫煙による乳幼児突然死症候群（SIDS）、早産、低出生体重・胎児発育遅延
レベル2 (タバコとの因果関係が示唆される；可能性あり)	<ul style="list-style-type: none"> がん：大腸がん、腎盂尿管・腎細胞がん、乳がん、前立腺がん死亡、急性骨髄性白血病 がん患者全体の生命予後悪化、再発リスク増加、治療効果低下および治療関連毒性（治療による副作用がでる） 循環器の病気：胸部大動脈瘤 呼吸器の病気：気管支喘息の発症と増悪、結核の発症と再発、特発性肺線維症 その他：う蝕（虫歯）、口腔インプラント失敗、歯の喪失、閉経後女性の骨密度低下、大腿骨近位部骨折、関節リウマチ、認知症および日常生活動作、女性の生殖能力低下、妊婦の子宮外妊娠・常位胎盤早期剥離・前置胎盤、妊婦の子癩前症・妊娠高血圧症候群（PIH）のリスク減少

「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」(2016)より引用

またレベル2（可能性あり）の中には、大腸がんや乳がん、急性骨髄性白血病、胸部大動脈瘤、気管支喘息、特発性肺線維症に加えて、虫歯や骨折、関節リウマチなども判定されています。このように、本人のタバコの喫煙は気がつかない間に、体の多くの部分をむしばんでいます。

一方、本人は喫煙しなくても周りのタバコの煙を吸わされてしまうことを受動喫煙と呼びます。受動喫煙と肺がんとの関連は、日本で行われた計画調査（平山雄；国立がん研究センター研究所疫学部長〈当時〉）におい

て、1981年に初めて報告されています。本人が吸わなくてもヘビースモーカーの夫をもった女性では、肺がん死亡のリスクが約2倍になるという報告は印象的なものです。タバコ白書では、受動喫煙と肺がん、虚血性心疾患、脳卒中がレベル1（確実）に分類されています（表2）。またレベル2（可能性あり）として乳がんの他、急性・慢性の呼吸器症状が分類されています。本人がタバコを吸わなくとも、受動喫煙により、喘息などの症状悪化の可能性があることを理解し、タバコの煙を避けた方がよいでしょう。

表2 タバコの受動喫煙による健康への影響

レベル1 (受動喫煙との因果関係を推定する証拠が十分；確実)	<ul style="list-style-type: none"> 肺がん 循環器の病気：虚血性心疾患、脳卒中
レベル2 (受動喫煙との因果関係が示唆される；可能性あり)	<ul style="list-style-type: none"> がん：鼻腔・副鼻腔がん、乳がん 呼吸器への急性影響：急性の呼吸器症状（喘息患者、健常者）、急性の呼吸機能低下（喘息患者） 呼吸器への慢性影響：慢性呼吸器症状、呼吸機能低下、喘息の発症・コントロール悪化、COPD

日本では、アメリカやヨーロッパなどに比べて喫煙率は高かったものの、おおよそ1996年をピークに紙巻きタバコの販売本数は低下しています（1996年；3483億本/年、2021年；937億本/年）。一方で加熱式タバコを使用する人が増え、その販売本数は2021年460億本と、紙巻きタバコの約半分に到達しています。加熱式タバコのパンフレットには、「健康懸念物質や有害性成分を90%オフ」といったことが書かれています。有害性成分が90%オフなのだから、病気になる確率も90%オフになるのではないかと誤解しがちですが、そういった科学

的証拠はありません。また加熱式タバコは煙がなく匂いが少ないことから、周囲の人が受動喫煙だと気づかず、知らないうちにさらされてしまう危険性が高いのです。受動喫煙には有害成分の量による被害の大小を示す証拠は乏しく、たとえわずかの機会であっても、受動喫煙による健康被害が起こりうることを、WHOをはじめとしたさまざまな学会や団体が、警鐘を投げかけています。加熱式タバコは流行していますが、決して健康によいものではなく、その利用者の方はご自分や家族や周りの方を実験台にすることのないようにしていただきたいと思います。



最新のがん統計

毎年、どのくらいの方ががんになり、亡くなっているかということは、国の届け出制度に基づいて、毎年報告が出されています。国立がん研究センターがん情報サービスでは最新のがん統計の情報を公開しています。

最新のがん情報について、この情報をもとに解説します。

(https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html)

がん死亡は死亡届に基づく情報をまとめています。一方、がんになった人（がん罹患）の情報は全国がん登録に基づき、国立がん研究センターが情報を収集しています。がん死亡時に届け出を出しますが、がん罹患は医療機関から情報を集めるので時間がかかり、両者の報告年にはずれがあります。

がん罹患の最新情報は 2019 年です。2019 年に新たに診断されたがんは 999,075 人でした。男性と女性ではがん罹患が多い部位は異なります。ただし、大腸がん、胃がん、肺がんは男性にも女性にも多いがんです。男性で最も多いのは前立腺がん、女性では乳がんでした。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男	前立腺	大腸	胃	肺	肝臓
女	乳房	大腸	肺	胃	子宮
全数	大腸	肺	胃	乳房	前立腺

がん死亡の最新情報は 2021 年です。2021 年にがんで死亡した人は 381,505 人でした。男性と女性ではそれぞれ多いがんが異なるために死亡の原因も異なります。がん死亡の第 1 位は男性では肺がん、女性では大腸がんでした。

がんの罹患と死亡は必ずしも一致しません。それはがんの種類により、治療成績が異なるからです。がん検診の対象となる胃がんや大腸がんのがん罹患は多いのですが、治療成績が比較的良好です。従って、がん検診の早期発見ができれば、胃がんや大腸がんによる死亡を減らすことができます。一方、最近増加している膵臓がんはがんの早期発見が難しく、胃がんや大腸がんに比べて治療成績は良好とは言えません。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
男	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女	大腸	肺	膵臓	乳房	胃
全数	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓

2019 年のがんの罹患データに基づく、生涯にわたり男女ともに 2 人に 1 人ががんにかかる可能性があります。また、2021 年のがんの死亡データに基づく、生涯にわたり男性では 4 人に一人、女性では 6 人に 1 人ががんで死亡する可能性があります。

胃内視鏡検診研究事務局（新潟市医師会内） 電話 025-247-8900（9：00～16：00）
メールアドレス kenshin@esgcr.jp